

# 安全運転 のために

(社)福島県交通安全協会  
監修/福島県警察本部交通部



# は じ め に

運転者の皆さん、毎日の安全運転お疲れ様です。

「交通事故は起こしたくない、交通事故にはあいたくない」という思いは、ドライバーはもちろん、誰もがみな同じです。

この資料は、運転免許の更新を機会に「くるま社会」の現状や県内の交通事故の実態、特徴、更にはそれぞれの運転者に応じた交通事故防止の方策などについて、改めてご理解をいただき、更に安全意識を高めていただくために作成したものです、ぜひお役に立てて下さい。

福島県交通安全協会

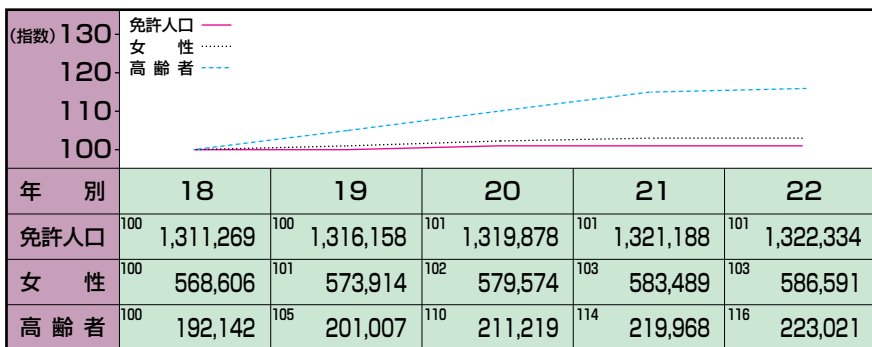
# も く じ

第1	道路交通の現状	1
1	県内の運転免許人口	1
2	県内の車両台数	1
第2	交通事故の発生状況	2
1	全国の交通事故	2
2	県内の交通事故	2
3	交通事故の特徴点	3
第3	交通事故防止	5
1	事故発生のメカニズム	5
2	事故要因	5
3	事故発生の内在的要因	6
4	高齢ドライバー	7
5	青年ドライバー	9
6	交差点の交通事故	10
7	夜間事故防止	11
8	シートベルトの効果	13
	交通安全協会のご案内	15
	ドライバー総参加のセーフティーチャレンジ運動 会員の方のサービス店制度導入	

# 第1 道路交通の現状

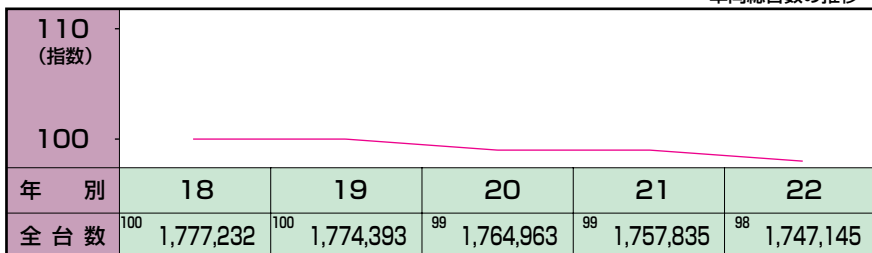
## 1 県内の運転免許人口

平成22年末現在の県内の運転免許人口は、1,322,334人で、今や県民の半数以上の人が運転免許を持っていることとなります。



## 2 県内の車両台数

～車両総台数の推移～



※車両台数は、3月31日現在の陸運台数と4月1日現在の原付等台数の総計

# 第2 交通事故の発生状況

## 1 全国の交通事故

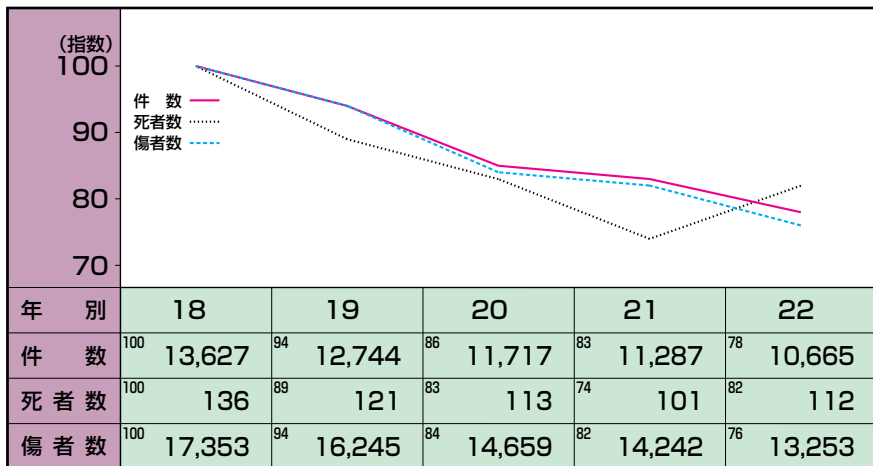
- 約43秒に1件の人身事故
- 1日平均約13人死亡



	件数	死者数(人)	傷者数(人)
平成22年	725,773	4,863	896,208
平成21年	737,474	4,914	911,108
増減	-11,701	-51	-14,900

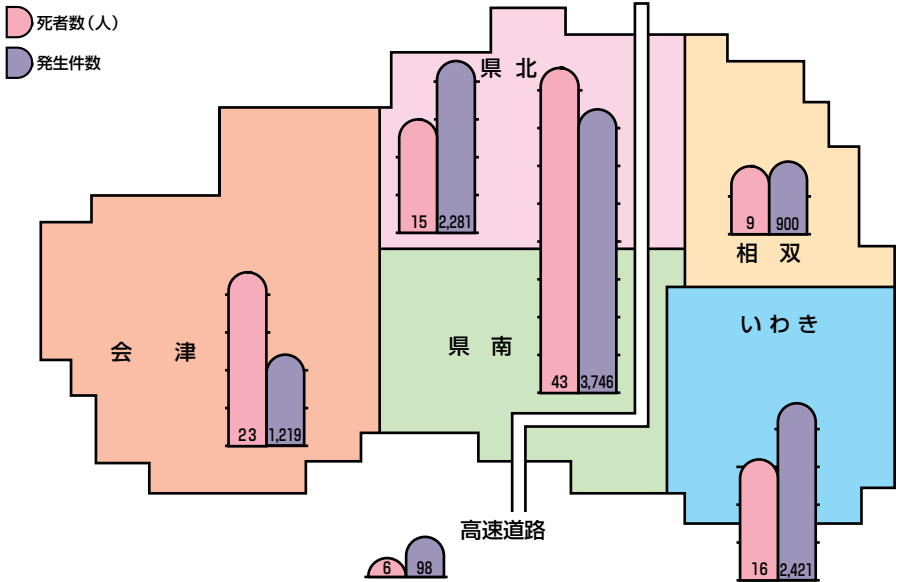
## 2 県内の交通事故

- 人身事故は1日平均約29件
- 人身事故の約95.2件に1件は死亡事故
- 交通事故による負傷者は1日平均約36人

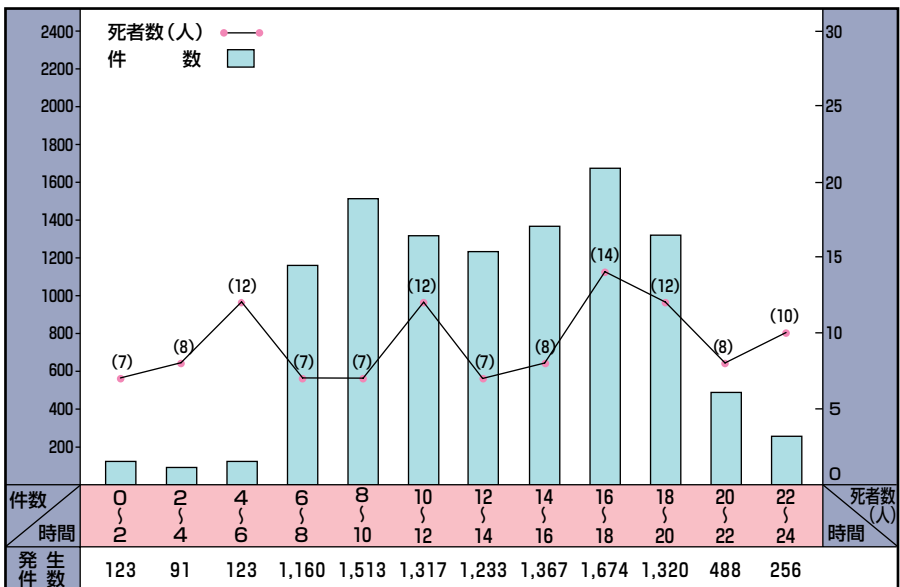


### 3 交通事故の特徴点

■ 県内の交通事故の発生状況は次のとおりです。



■ 事故発生時間帯



## ■年齢別免許人口に対応する事故発生率

年齢別ドライバーの事故発生率をみると、19歳以下の事故率が最も高く、次いで20歳から24歳の順となり青年ドライバーによる事故率が高いことが分かります。



年齢別	免許人口	事故件数	事故率
19歳以下	18,702	468	2.5
20～24	90,649	1,275	1.4
25～29	104,253	1,042	1.0
30歳代	246,534	1,950	0.8
40歳代	236,848	1,659	0.7
50歳代	268,445	1,723	0.4
60～64	133,882	830	0.6
65歳以上	223,021	1,671	0.7

※上記表中事故件数には、当事者不明の事故41件は含まれておりません。

## ■事故類型別

- 人対車両…横断中（横断歩道を含む）が最も多く約53.8%となっています。  
(946件発生)
- 車両相互…追突事故が最も多く約45.6%、次いで出会い頭衝突が約30.5%となっています。  
(9,372件発生)
- 車両単独…工作物衝突が最も多く約55.6%、次いで転倒が約13.0%となっています。  
(347件発生)

## ■事故原因

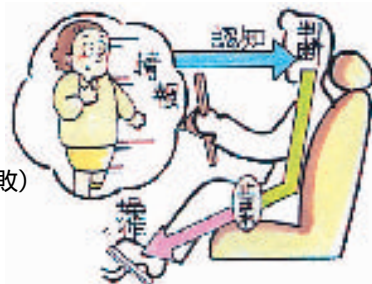
- 四輪・二輪車が原因となった事故……前方不注意が最も多く、約28.5%を占めています。  
(10,564件発生)
- 自転車が原因となった事故……四輪・二輪車同様に、前方不注意が最も多く、約32.1%を占めています。  
(53件発生)
- 歩行者が原因となった事故……横断歩道外横断によるもの。  
(1件発生)

# 第3 交通事故防止

## 1 事故発生のメカニズム

- 車の運転は、
- 「見る、聞く」（認知）
  - 「決める」（判断）
  - 「動かす」（操作）

の3つの作業の繰り返しから成り立っています。  
これらの作業や繰り返しのどこかの段階でのミス（失敗）  
によって交通事故が発生します。



## 2 事故要因

交通事故は、さまざまな要因によって発生します。

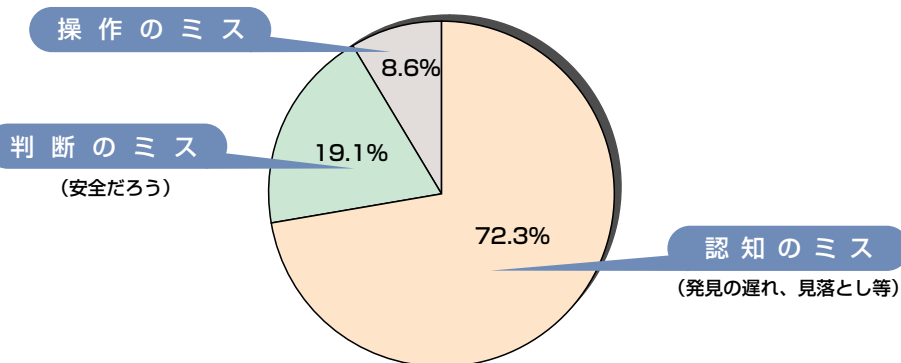
認知

判断

のミスをなくせば約9割の交通事故は防げます。

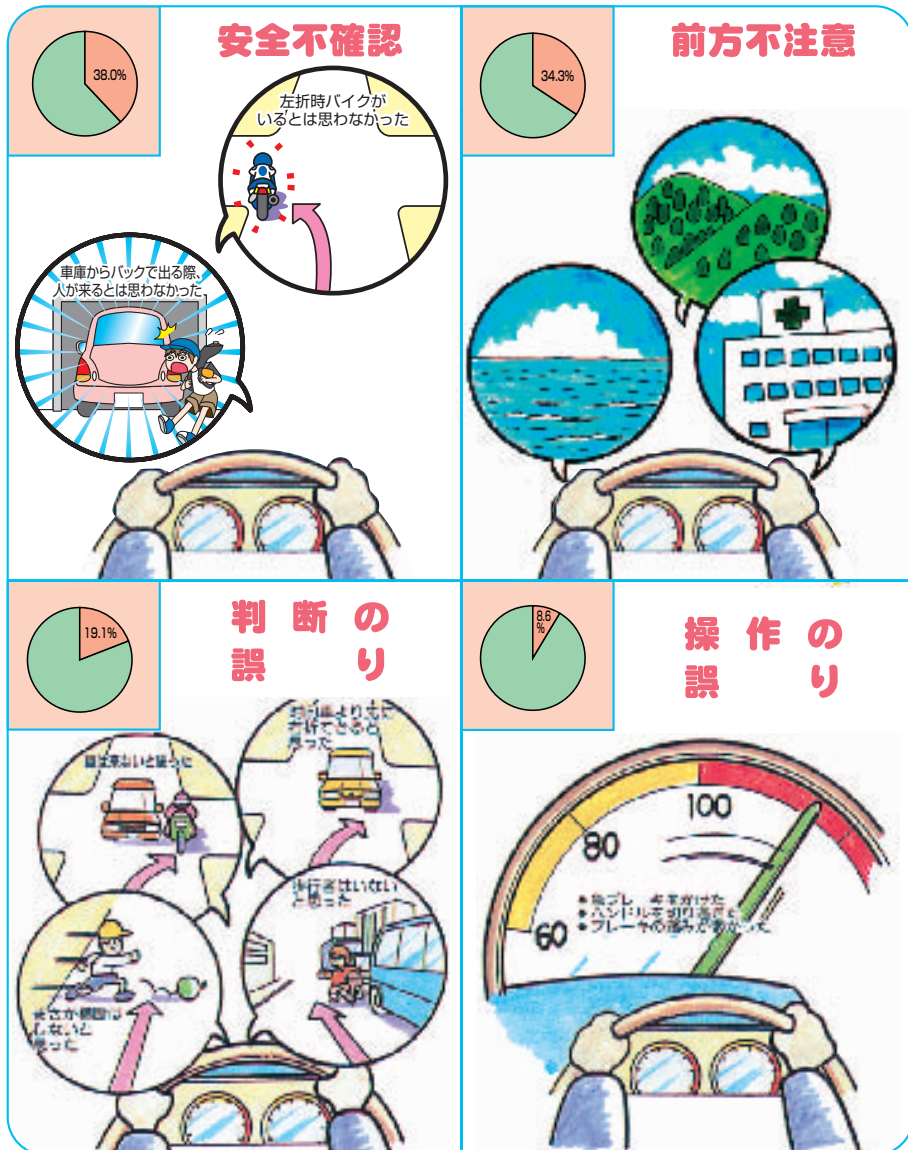
平成22年中に県内で発生した交通事故を運転行動のミスから分析すると次のグラフのようになります。

このグラフをみてもおわかりのように、交通事故の約91.4%が「脇見していた」「危険に気付かなかった」「この速度でも安全と思った」等の発見の遅れ、あるいは読みや判断の甘さといった認知や判断のミスによるものです。



### 3 事故発生要因

交通事故の主な原因は脇見、安全不確認、判断の誤り、スピードの出しすぎ、考え事等です。では、いったい、どうして脇見をしたり判断を誤ったのでしょうか。県警察本部交通企画課で分析した結果は次のとおりです。



## 4 高齢ドライバー（65歳以上の方）

### 事故発生状況

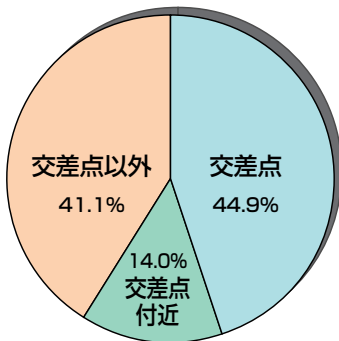
	平成22年	平成21年	全事故に占める割合	
			平成22年	平成21年
発生件数	1,660	1,684	15.6	14.9
死亡事故 (件数)	24	18	22.2	18.9
死者数 (人)	25	18	22.3	17.8



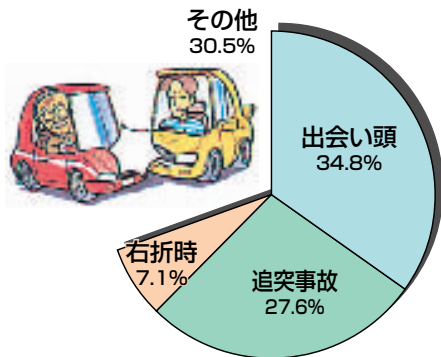
### 高齢者事故の特徴

1 出会い頭、2 追突事故、3 右折事故

(場 所)



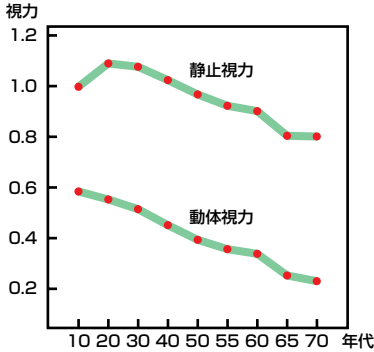
(事故類型)



高齢ドライバーによる事故の58.9%は、交差点及びその付近で発生しています。また、事故の34.8%は、出会い頭による事故です。

## 加齢による身体的機能の低下

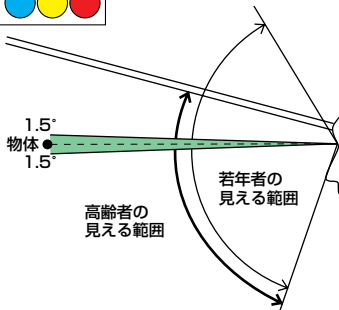
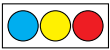
### ■障害物の発見が遅れる



～動体視力が低下しています～

運転中の視力は、静止している時の約半分に低下します。特に60歳ころからの低下度は大きいので注意が必要です。動体視力は速度を増すに従って低下するため、道路上の障害物の発見の遅れ、標識などの見落としの原因になっています。速度を控えた運転が必要です。

### ■信号を見落としがち



～垂直視野が狭くなっています～

歳をとると、瞳が小さくなり、まぶたが垂れるなどのため見える範囲が狭くなってきます。このため、上の方の見える範囲が狭くなり高いところの信号を見落とししたり車内のバックミラーによる後方確認を怠ることになります。信号機や標識などを見落とさないように注意する必要があります。

### ■交差点では特に注意



高齢ドライバーの交差点事故は

- 交差点に気付かなかった
- 一時停止の標識を見落とした
- 左右の安全を確認しなかった

などの原因が主なものです。

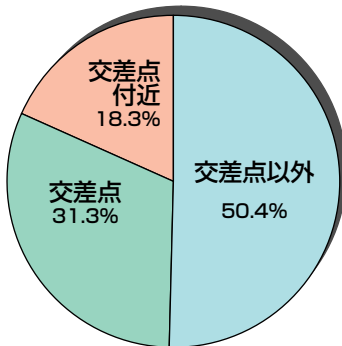
交差点では、何を確かめるのかをしっかりと頭に入れておき、確認ムラのないようにしてください。

## 5 青年ドライバー (25歳未満の方)

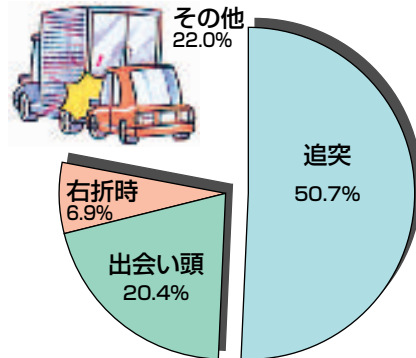
### 事故発生状況

	平成22年	平成21年	全事故に占める割合	
			平成22年	平成21年
発生件数	1,717	1,945	16.1	17.2
死亡事故 (件数)	15	16	13.9	16.8
死者数 (人)	15	17	13.4	16.8

(場所)



(事故類型)



青年ドライバーによる事故の49.6%は、交差点及びその付近で発生しています。また、事故の50.7%は追突による事故です。

## 6 交差点の交通事故

- 交差点における交通事故は事故全体の54.1%を占めております。  
交差点での事故の死者数は、全死者数の40.2%を占めております。

	平成22年	平成21年	全事故に占める割合	
			平成22年	平成21年
件数	5,769	6,187	54.1	54.8
死者数(人)	45	40	40.2	39.6
傷者数(人)	7,124	7,664	53.8	53.8

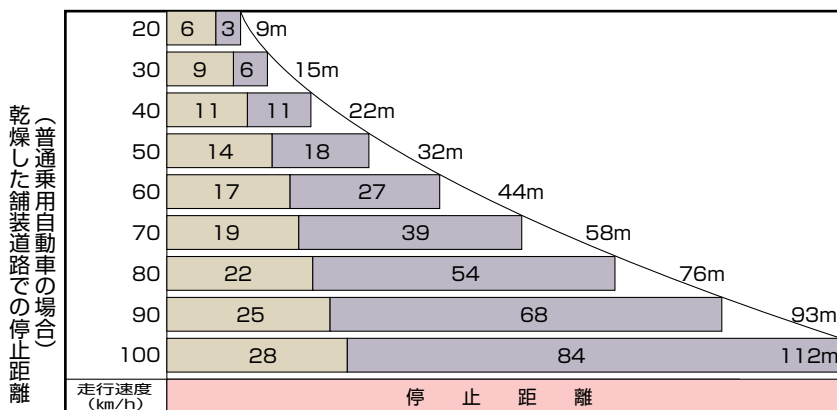
- 右折しようとする場合に、その交差点で直進か左折をする対向車があるときは、自分の車が先に交差点に入っても、直進や左折の車の進行を妨げてはいけません。

### 車の特性を知ろう

- スピードの出しすぎは、衝撃力の増大ばかりではなく、停止距離が伸びる原因にもなります。



#### 急ブレーキで止まるまでの距離



空走距離

+

制動距離

=

停止距離

# 7 夜間事故防止

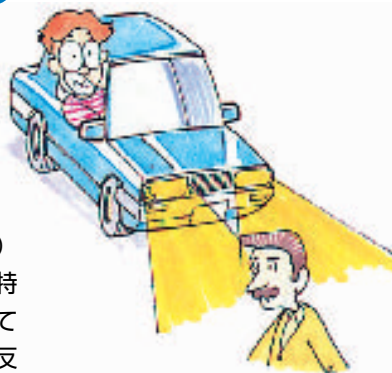
県内の平成22年中に発生した死亡事故件数は、108件（112人死亡）で、これを昼夜別にみると、

昼間52件（52人）

夜間56件（60人）

となっております。

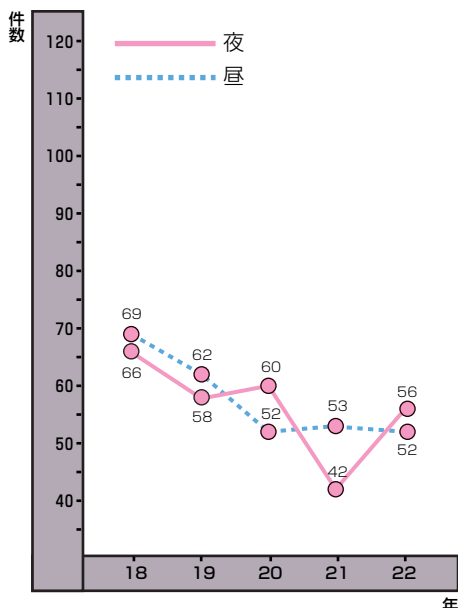
夜間の交通死亡事故を、深夜（21時）から未明（3時）にかけて見た場合、20件（22人）発生しております。特に道路横断中の死者は20件（20人）で35.7%を占めており、また、原因別では前方不注視等の安全運転義務違反が35件（37人）と、基本的な注意力等の欠如によるものが約8割を占めています。



**歩行者の夜間死亡事故は昼間の約2.2倍**

※21年の数値は2.3

■昼夜別死亡事故件数の推移



■事故類型別死者数の昼夜別割合（%）

（平成22年）

人対車両	横断歩道横断中	75.0%(6人) (夜)	(昼) 25.0%(2人)
	その他横断中	63.6%(14人)	36.4%(8人)
	歩行中	66.6%(2人)	33.4%(1人)
車両相互	その他	77.8%(7人)	22.2%(2人)
	正面衝突	46.6%(7人)	53.4%(8人)
	追突	80.0%(4人)	20.0%(1人)
	出会い頭	18.8%(3人)	81.2%(13人)
	追越・追抜時	0%	100%(1人)
	右折時	50.0%(2人)	50.0%(2人)
車両単独	その他	なし	
	工作物衝突	57.1%(12人)	42.9%(9人)
	路外逸脱	33.3%(2人)	66.7%(4人)
	その他	50.0%(1人)	50.0%(1人)
	駐車車両衝突	なし	
	列車	なし	

## ライトの照射範囲と停止距離との関係を知ろう。

ヘッドライト下向き、時速60kmでは危険を発見しても避けられない。

状況に応じて下向き、上向きを使い分ける。



## ライト下向きの危険性



## こんなに違うライトの「上向き」「下向き」

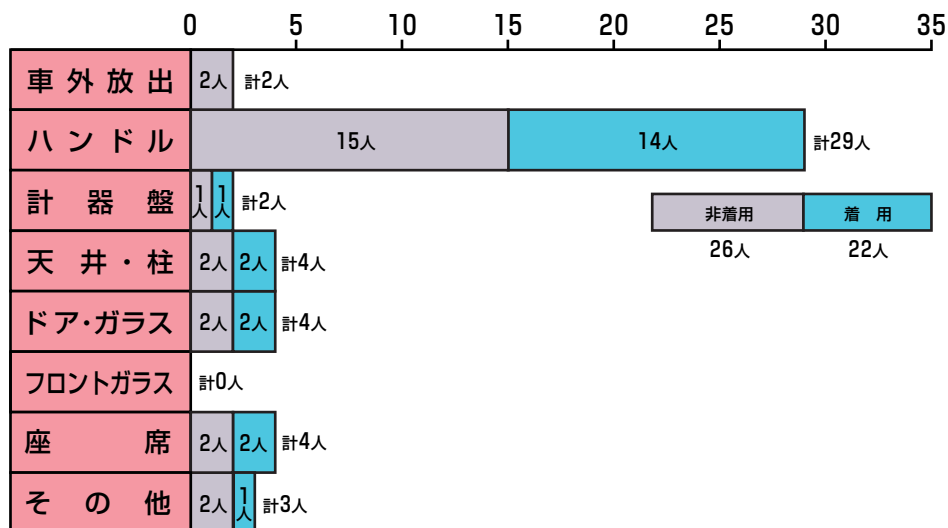
- 平成22年中の夜間に発生した歩行者被害の死亡事故は29件で、このうち26件が「下向き」で、そのほとんどが前車、対向車がないのに「下向き」で走行中、歩行者の発見が遅れ死亡事故になっています。

## 8 シートベルトの効果

シートベルトは、何のため、誰のためにあるのでしょうか？

交通死亡事故を見てみますと、衝突の衝撃で車外に放出されて亡くなった方はもちろん、車内のハンドル、ドア、ガラス、天井、柱等に衝突して亡くなるというケースが非常に多くなっています。

### 平成22年中の四輪乗車中の死者数〔48人〕

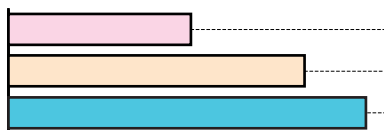


しかし、現実には、大きな交通事故になるほど、事故当事者のシートベルトの着用率が低下しています。

死亡事故の着用率 47.9%

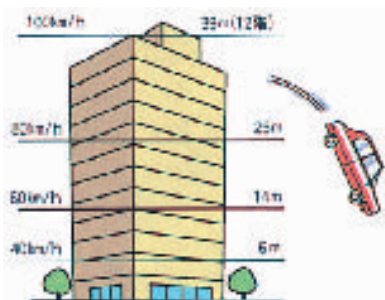
重傷事故の着用率 77.7%

軽傷事故の着用率 94.4%



車が衝突した時、人間の手足で支えられるのは、体重の3倍が限度で、車の速度にすれば時速7km程度です。

時速100kmのスピードで衝突した場合は、地上12階建てのビルの屋上から転落したときの衝撃力と同じといわれています。



## 事例

ガードパイプに衝突横転したが  
軽い怪我ですんだ。



〈シートベルトをしていなければ?〉

### 事故の概要

- 場所 主要地方道いわき・上三坂・小野線
- 概要 乗用車を運転、居眠りをしたためガードパイプに衝突して横転し、約50メートル滑走して停止した事故。
- シートベルトの効用  
運転者は全身打撲で病院に搬送されたが、シートベルトを着用していたことから、約1週間の怪我で2日後から仕事に復帰した。

# 交通安全協会のご案内

交通安全協会は、交通事故のない安全で快適な「くるま社会」を実現するため、次のような事業を推進しています。

## ◆広報啓発

立看板、チラシ、電光表示板、のぼり旗、横断幕、テレビ・ラジオ・新聞、映画・ビデオなどを通じた広報

## ◆交通安全活動

各季の交通安全運動、新入学児童・園児の事故防止運動などの各種イベント、ベビーシート・チャイルドシートの無料貸出、パトロール活動、地域の交通事故防止などの支援活動

## ◆交通安全調査

地域の交通危険箇所の調査及び交通事故防止対策

## ◆免許更新関係

更新忘れ防止のための通知、免許証ケース、会員証、セーフティードライブマップ、交通安全協会のしおりなどの配布資料

## ◆交通安全功労者、優良運転者などの表彰

## ◆会員の方のサービス店制度導入

## 安全運転 5原則

- 1 安全速度を必ず守る
- 2 カーブの手前でスピードを落とす
- 3 交差点では必ず安全を確かめる
- 4 一時停止で横断歩行者の安全を守る
- 5 飲酒運転は絶対にしない

## 高速運転 安全5原則

- 1 安全速度を守る
- 2 十分な車間距離をとる
- 3 割り込みをしない
- 4 わき見運転をしない
- 5 路肩走行をしない

# ドライバー総参加の セーフティチャレンジ運動

福島県内に居住、又は勤務するドライバー3名で構成されたチームが、8月1日から同年12月31日までの5ヵ月間の安全運転（無事故・無違反）にチャレンジするものです。年齢制限等はありません。

**無事故・無違反を目指しましょう。**  
**無事故・無違反を達成したチームの全員に記念品を進呈！**  
**抽選で特別賞が当たります。**

ベストドライバー賞（15万円の商品券）……………3本  
セーフティ賞（6万円の商品券）……………10本  
チャレンジ賞（3万円の商品券）……………50本  
チームワーク賞（9千円の商品券）……………250本

※平成23年度の内容です

※申込み・その他、詳しい内容は福島県交通安全協会、又は各地区交通安全協会にお問い合わせ下さい。

福島県交通安全協会

## 「サービス店制度」が始まりました

会員の方はサービス店の特典を受けることができます



**このステッカーが目印です**

※サービス内容がサービス店によって異なります。詳しくはサービス店におたずねください。

**交通安全協会の会員になろう!!「交通安全協会サービス店」が会員に特典を提供**

交通安全協会の活動に賛同する県内の商店や事業所に「交通安全協会サービス店」に参加していただき、交通安全協会の会員に様々な特典を提供していただく会員割引制度です。会員の皆様方は交通安全協会の「会員証」をご提示していただくだけで特典やサービスが受けられます。また、特典やサービスは福島県内の交通安全協会サービス店であればどこでも利用できます。詳しくはサービス店でお聞き下さい。

# 交通安全協会の活動

## 交通安全活動に対する表彰

長い間、交通事故防止・交通安全活動に努められてきた会員の皆さまに対して、交通安全功労者、優良運転者等の表彰を行っています。

表彰は、各地区、県、東北で行うもののほか、全国規模で行う緑十字金（銀、銅）章の制度があります。



園児とともにストップマークの貼付



会員による除草作業

## 交通安全意識の普及拡大活動

各地区交通安全協会では、交通安全の意識高揚と実践活動を普及するため、交通安全大会や街頭キャンペーン、夜光反射材の着用体験、子どもや高齢者を対象とした交通教室などを関係機関・団体と連携して行っています。



## チャイルドシートなどの貸出事業

交通事故による乳・幼児のケガなどを少なくするため、平成10年（1998年）からチャイルドシート、ベビーシートを購入し、各地区交通安全協会から、希望する会員の方に無料で貸出しを行っています。



## ハンドルキーパー運動の推進

この運動は、自動車を利用して仲間と飲食店などに行く場合に、あらかじめ酒を飲まない人を決めておき、飲酒した仲間を自宅まで送り届ける運動です。飲酒運転による悲惨な事故を絶滅するため、みんなで実践しましょう。

## 子ども自転車大会の開催

「交通安全教育は、人格や行動習性の形成時期に行うのが最も効果的である。」といわれることから、その教育効果を一層高めるため、昭和42年（1967年）から小学高学年を対象とした大会を開催しています。



## セーフティチャレンジ事業

県内に居住または勤務している3人がチームを組んで、毎年、無事故・無違反（セーフティ）に挑戦（チャレンジ）するものです。

毎年8割以上のチームが無事故・無違反を達成しており、交通事故防止に大きく貢献しています。



会員によるカーブミラー清掃活動